

平成 2 3 年度事務事業評価調書

平成 2 3 年度作成

平成 2 2 年度 実施事業		事務事業名 財団法人登別市文化・スポーツ振興財団事業補助金	
区分	番号	名称	
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	
節	9		
施策	9		
小分類	9		
主要な施策	9		
事務事業番号	001	事務事業コード	59999001
		事業開始年度	平成 8 年度
		事業終了年度	平成 - 年度
会計種別	一般会計		予算書上の事務事業名
部 名	教育部	グループ名	社会教育 G
統合前または名称変更前の事業名			

事務事業の目的と成果	
目的	(事務事業の実施目的を具体的に記載してください) 市民が、文化やスポーツに触れる機会を拡充し、文化、スポーツ活動の振興を図る。
手段 (事業の内容・活動)	(目的を達成するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載してください) ・財団法人登別市文化・スポーツ振興財団が実施する事業に対し補助金を交付する。 【平成 2 2 年度実施事業】 文化振興事業 ・文化教室開催事業 (初心者英会話教室外 6 教室) ・芸術鑑賞事業 (夏川りみコンサート外 1 事業) ・共催事業 (市民文化祭外 3 事業) スポーツ振興事業 ・スポーツ教室開催事業 (ジュニアテニス教室外 9 教室 1 事業) ・スポーツ大会開催事業 (市民スポンジテニス大会) ・共催事業 (市民ゲートボール大会外 1 大会)
成果	(事務事業の実施成果を具体的に記載してください) 多くの市民が、芸術鑑賞やスポーツなどの事業に参加する機会が確保された。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載してください) 登別市補助金等の事務取扱に関する規則

指標の推移		単位	区分	22年度 実績	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	参加人数 (延べ)	人	目標値	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
			実績値	5,504				
			目標値					
			実績値					

事業費の推移

区 分		単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度
事業の 財源内訳	国庫支出金 名称	千円						0
	道支出金 名称	千円						0
	地方債 名称	千円						0
	その他 名称	千円						0
	一般財源 名称	千円	3,614	4,408	4,998	4,998	4,998	14,994
合 計			3,614	4,408	4,998	4,998	4,998	14,994
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費		職 員	千円	100	102			
		嘱 託 員	千円	0	0			
		臨時職員	千円	0	0			
		合 計		100	102			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 市民の文化やスポーツの振興を図るため、登別市文化・スポーツ振興財団に補助金を交付して支援するのは妥当である。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 多くの市民が、芸術鑑賞やスポーツなどの事業に参加する機会が確保されている。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 市民ニーズを踏まえ更なる事業内容の検証、事業展開を進めることで、事業の拡大や参加者の増加につなげることができる。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 市民の文化やスポーツに対するニーズは高まっており、その事業の展開を図るための補助金の削減は難しい。ただし、毎年補助対象事業を精査することにより、効果的な補助金の交付に努める。

担当グループによる評価

維持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	文化・スポーツに対する市民の関心が高まってきている中、文化・スポーツ振興財団の役割は重要であり支援することが必要である。 市民のニーズを捉えた新事業も組み込まれており、今後も効果的な補助金の交付に努める。
-----------	----------------------	---

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

維持	備考
-----------	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）